

政治地理学の展開と課題

政治・空間・場所 第3章
第1部 政治地理学がたどってきた道

政治地理学の「政治」(1)

- 政治とは(『広辞苑』より)
 - 人間集団における秩序の形成と解体をめぐって、人が他者に対して、または他者と共に行う営み。権力・政策・支配・自治に関わる現象。
 - 主として国家の統治作用を指すが、それ以外の社会集団および集団間にも適用できる。

2

政治地理学の「政治」(2)

- 権力
 - 自己の意図に沿って他者を行為させる力(権威的・物質的力)
- 政策
 - 公的権力(国家や自治体)が実行する施策
- 支配
 - 強者による弱者の制御。抵抗を生み出すことも
- 自治
 - 自ら統治する行為や権力

3

政治地理学の「政治」(3)

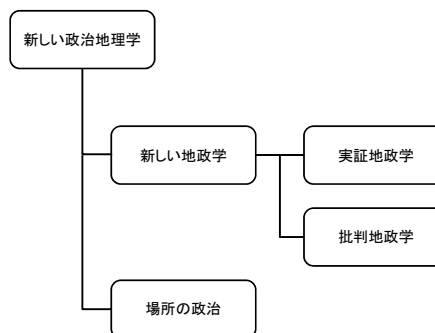
- もはや国家の統治作用のみを指さない
 - 民主主義の浸透やグローバル化の進展の中で非国家的アクター(国際組織、地方政府、NPO/NGO)の役割
 - しかし、国家は無視できない。
 - また、国家を超えて起こる変化も無視できない。

4

新しい政治地理学

- 1950年代
 - 国家の空間的構成にかかわるいくつかの研究
- 1960年代衰退
- 1970年代復活
 - 公民権・ベトナム反戦運動など国内外の政治・社会情勢
- 1980年代再興
 - その背景となる国際的緊張の高まり(第二次冷戦)

5



6

新しい地政学(new geopolitics)

- 研究スケールの拡大
 - 国際関係に対する世界経済の構造規定性
 - 伝統地政学と同様の視線と視野
- 伝統地政学の「相対化」
 - 伝統地政学の見直し
 - 外交・軍事への応用ではなくその実証分析(脱 Geopolitik化)
 - 覇権国家への**批判的視角**

7

世界システム論(1)

- イマニュエル・ウォーラーステイン
- 従属論(中心一周辺関係)
 - 1960年代にブラジルで理論化
 - **中核(core)**と**周辺(periphery)**からなる世界経済想定
 - **周辺の立場**は新旧の植民地主義によって**負荷**
 - **中核**=発展、富の蓄積
 - **周辺**=低開発、富の喪失
 - **周辺**は**中核**の需要と政策に依存

8

世界システム論(2)

- 世界システム=一国を超えた分業システム
 - 互酬的なミニシステム、再分配的な世界帝国
- 近代(資本主義)世界システム
 - 中心、周辺、**半周辺(緩衝帯)**
 - 中心に**覇権国家**が一定の間隔で台頭・盛衰
 - 生産・流通・金融・文化で他国圧倒
 - 17世紀中頃 **オランダ**
 - 19世紀中頃 **イギリス**
 - 第二次世界大戦後 **アメリカ**

9

世界経済の変動と覇権国家の盛衰

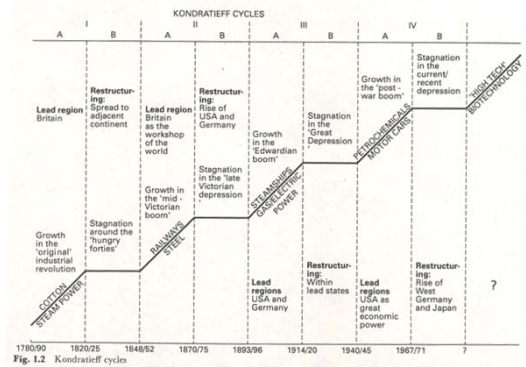


Fig. 1.2 Kondratieff cycles

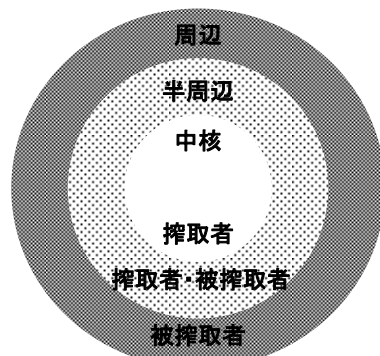
10

ピーター・テイラーの政治地理学

- 世界システム論を国際・国内政治の歴史・地理的動態を把握する視角として導入
- 近代世界システム=世界経済と**国家間システム**
 - 純然たる国家の経済や政治はない!
 - **三層スケール**(後日詳述)
- **冷戦後のグローバル化**した世界に適合

11

中核・半周辺・周辺からなる世界



12

テイラーによる3つの地理的スケール
(マルチスケールの地政学)



13

実証的な新しい地政学

- 特に冷戦後のアメリカを中心にどうい外交(軍事)政策が展開されているか解明
 - 環境決定論と自国中心主義の克服
 - 封じ込め政策の視覚化 (Nijman 1992)
 - 冷戦の終焉をはさむ政治経済的リーダーシップの変化 (Grant and Nijman 1997)
 - 9/11直前の米国の戦略的重要地域 (Yamazaki 2006)
- ↓
- 大国側にユーラシア大陸を中心とする地戦略論の継続 (cf. 防衛庁『防衛白書』の記述)

14

米ソ対立の地域的展開(1948-88)



Figure 3.2 US-Soviet conflict: zones of most serious trouble, 1948-1988. (Adapted from Nijman 1992: 688)

15

アメリカの対外援助(1987-93)

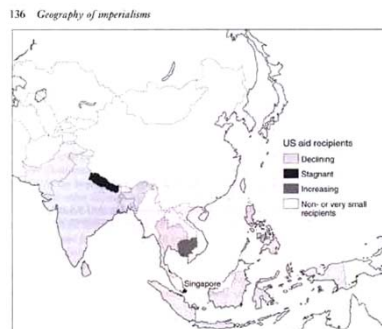


Figure 3.14 Trends in US bilateral aid to the Asia-Pacific region, 1987-93. From Grant and Nijman (1997). Reprinted by kind permission of the Association of American Geographers.

16

日本の対外援助(1987-93)

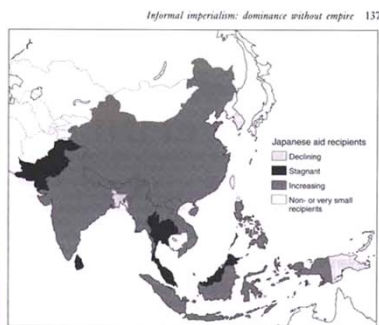
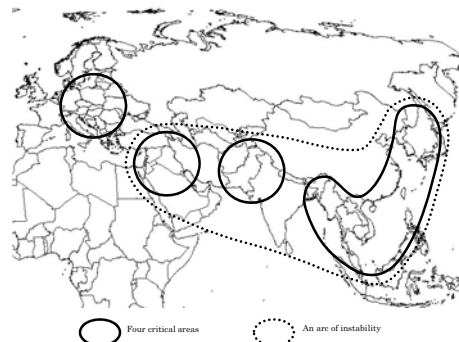


Figure 3.15 Trends in Japanese bilateral aid to the Asia-Pacific region, 1987-93. From Grant and Nijman (1997). Reprinted by kind permission of the Association of American Geographers.

17

米国『4年ごとの防衛見直し計画』における戦略的重要地域(2001)



18

批判地政学

- 国家の**覇権性**、**国家間の権力関係**を批判的に検討
- ポスト構造主義、フェミニズム論、脱構築など社会理論に依拠↔**実証主義と対立・論争**
- **言説分析**による**権力関係**の解明
- 冷戦期の米ソ関係、アメリカ外交政策の検討
- 伝統地政学、情報・メディア、大衆文化、環境安全保障

19

批判地政学の特徴

- 保守的政治家・知識人の思想・言動
- 自己と他者の図式
- レトリックやイデオロギーによって物質的なレベルでの「事実」を誇張・歪曲→「現実」を構成
- 第10章で解説

20

政治家の世界観

危機／恐怖の言説

状況の単純化

政策の正当化



21

場所と政治(1)

- 世界システム論の導入
- **ロカリティ(地方)**のスケールのとらえ方
 - グローバルな政治経済構造
 - ローカルなレベルでの問題(地域間競争や地域紛争)
- マクロ・スケールの**構造**と**特定の場所(place)**との関係性
- 第5章で解説

22

場所と政治(2)

- 場所が政治に関わる
 - 権力・政策・支配・自治に関わる政治の営みは、人々の日常生活が営まれる場所の性質(場所性)によって形成・左右される。
 - この場所性は**マクロなスケールでの政治経済的諸条件との関わり**からも形成されている
 - 例: 福井県若狭湾沿岸地域の「原発銀座」(注10)

23

福井県内の原発立地



<http://blogs.yahoo.co.jp/masonry666to/25793848.html>

24

グローバル／ローカル —マルチ・スケールの視座—

- ローカルに発生する出来事
 - 地場産業の産地や企業城下町での出来事
- 単にローカルではない
 - 経済的リストラクチャリング(資本主義の構造的変化)がローカルな場所に影響
 - 場所に展開する一般的／個別的プロセスとは
 - 単なる伝統的な個性記述ではなく、一般性と個別性の組み合わせから考える

25

泉州タオル(大阪タオル工業組合)
<http://www.os-towel.or.jp/>
 テキスト39頁

26



トヨタ本社と工場の立地(豊田市)

<http://www.toyota.co.jp/jp/facilities/manufacturing/honshakajo.html>

27

政治地理学の課題 —脱地政学化とマルチスケール—

- 国際関係の動態を地理的条件より構造的条件から説明
- 国家だけが政治のアクターでない
- グローバル／ローカル・スケールの問題
 - 垂直的に(異なったスケール間)で考える
 - なぜ泉州のタオル産業は衰退したか
 - 水平的に(地域間で)考える
 - USJ誘致合戦

28

発言の時間

- 第1章で説明した伝統地政学の地理決定論的、国家中心主義的アプローチにはどのような限界があったと言えるか。
- ウォーラステインやテイラーは国際政治の動態をどのように説明しようとしたか。伝統地政学のアプローチとどういう点で異なっているか。
- 教科書の例を参考に、身の回りの身近な(政治的)出来事が実はグローバルな変化や国政の動静と密接に結びついているような例がないだろうか。あれば説明してみよう。

29